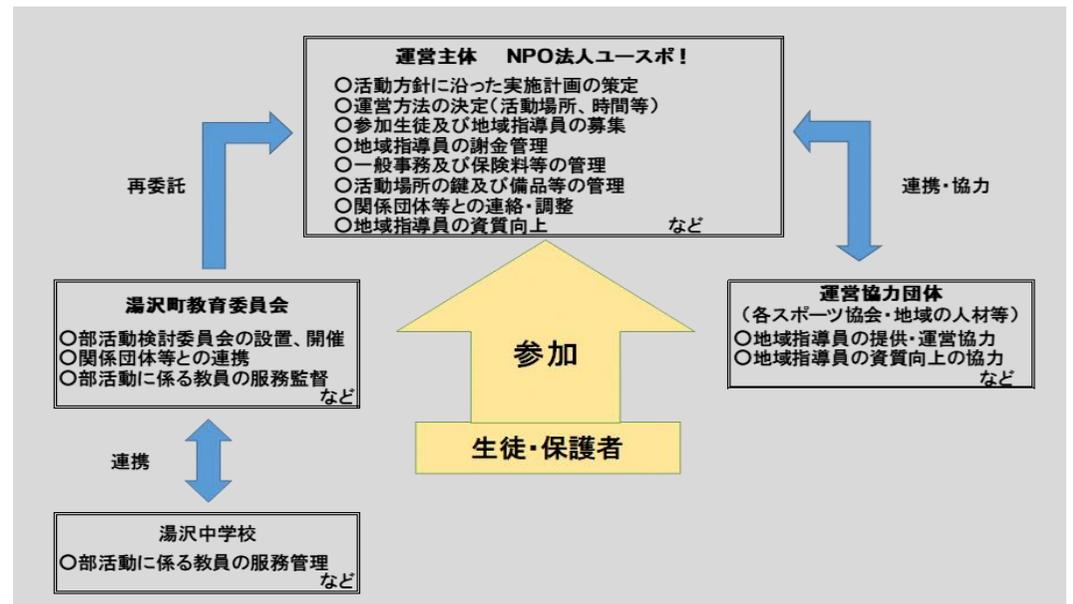


少子化に伴う中学生人口の減少により、学校部活動自体が既に持続可能ではない状況のなか、そのままの形で地域展開を実施しても持続可能な活動とはならない。また、地域移行を学校部活動の単なる地域スライドとして地域展開しないよう進めなければならない。

今後の課題としては、学校部活動がなくなった後の子どもたちのスポーツ活動について、どのような形が湯沢町で実現可能かといったビジョンを明確にし、町の財政的な支援や受益者負担に関し、保護者の理解を得ながら、できることからシステムを構築していく必要がある。

- ・「作業部会」により、町・学校・運営団体の連携が昨年度より強化した。
- ・資格取得の助成により、1名JSPO資格を取得した。
- ・中学生の指導にあたり、学校関係者の講演が良い研修となった。
- ・既存の小学生チームと中学生地域クラブの合同練習や社会教育関係団体との融合などの動きが、地方における持続可能な地域スポーツクラブのかたちとして、期待ができるようになった。
- ・明確で現実的な地域展開のビジョンの設定が、経費試算の前提条件となる。計画が現実的でなければ、事業実施後の修正が多くなる。
- ・学校施設の活用にあたってのハードルが明確になった。
- ・本業を引退した地域指導員であれば、平日の指導まで事業を拡大することが可能。

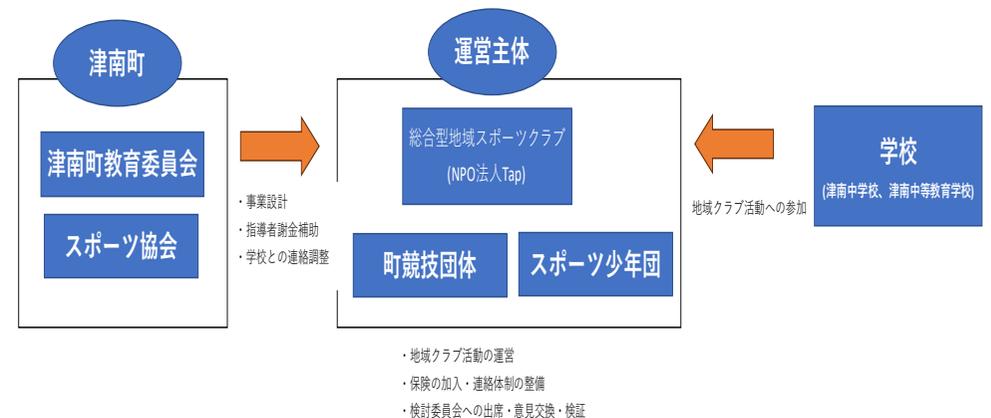
中学校数	1校	全生徒数	141人
域内の部活動数	10部	実施した地域クラブ数	6クラブ
全体の指導者数	11人	全体の運営スタッフ数	4人
主な運営団体	総合型地域スポーツクラブ		
主な種目	野球、テニス、陸上、バレーボール、卓球		
平均的な活動回数	1~2回/月	申込生徒実数	3年：18人/クラブ 2年：17人/クラブ 1年：32人/クラブ
参加会費	800円/年（保険）	主な活動場所	湯沢学園



津南町における出生数の減少が近年顕著にみられ、団体競技は特にチームとして成り立たないことが懸念される。そのため、生徒数に見合った部活動数に見直すとともに、活動の選択肢を広げていく必要性の双方を考慮しなければならない。令和4年度に教職員、保護者、児童生徒に対して部活動改革アンケートを行い、現在加入している部活動および今後やってみたい部活動等について回答してもらい利用者目線での現状と課題を洗いだした。令和5年度から休日の部活動地域移行の試行実施期間として8種目において始まった。また、すでにクラブチームが主となって中体連の大会に出場してきた競技団体もある。今後、平日の地域移行を見据え、子どもたちが継続的にスポーツに親しむ機会を確保・充実のために近隣市町村との広域連携を進める。また県立津南中等教育学校との連携についても引き続き取り組んでいく。

- ・部活動検討委員会を実施し、地域移行受け入れ団体・スポーツ関係団体・県立中等教育学校を含む町内中学校・PTA担当者が集まり情報交換や課題の確認をすることができた。休日の部活動地域移行の完全実施に向けて現状と課題を確認することができた。また、長期的な視点において平日における部活動のあり方や国の方針を伝えることで、各クラブが今後どうしていくべきかを考えるきっかけとなった。
- ・保護者・生徒への説明会を開催し、実際にクラブに参加して活動することで現状と今後への理解を進めることができた。
- ・十日町市の担当者と情報交換をすることができた。十日町市の現状と今後の方針、また津南町との連携の可能性について具体的な意見交換することができた。

中学校数	1校	全生徒数	116人
域内の部活動数	8部	実施した地域クラブ数	8クラブ
全体の指導者数	18人	全体の運営スタッフ数	18人
主な運営団体	津南町スポーツ少年団		
主な種目	バスケットボール、スキー（クロカン・アルペン）、バドミントン、陸上、水泳、バレーボール、ソフトテニス		
平均的な活動回数	5月～3月 月1-2回程度	年間平均参加生徒実数	3年：10人/クラブ 2年：10人/クラブ 1年：10人/クラブ
参加会費	各種目： 10,000円程度	主な活動場所	津南町総合センター



- ・村人口は4,668人（R7.1月末。前年比約150人減）。中学校生徒数はR8年度までほぼ同数を維持するが、R13年度には68名以下の見込み。今年度野球部は募集停止、ソフトテニス部は活動回数等を制限して活動。
- ・隣接する自治体と比較して取組が遅れていること、保護者や地域の理解、特に総人口が減少する中、指導者の継続的な確保が最大の課題である。
- ・バスケ指導者が独自に年度当初から活動開始。9月下旬から村教委が関与し他の3クラブも休日の試行（地域指導者が参加、合同指導）開始。しかし柔道は地域指導者が確定せず、部活動指導員のみが指導している。

- ・先行的に実践しているバスケクラブ等の実践例を地域指導者候補（スポ少指導者など）を対象に研修会を実施し、地域移行への必要性等の理解を図った。また、学校部活動の方針を基本的に継承することを各クラブで確認した。その結果3クラブで地域指導者を確保することが出来た。
- ・アンケート結果から、地域指導者が休日の学校部活動に参加するなど段階的な試行が必要と判断した。
- ・時間をかけ地域指導者と協議した結果、スポ少の活動や会費、会場、合同練習等、指導者側から主体的な提案が見られるようになった。

中学校数	1校	全生徒数	99人(5/1現在)
域内の部活動数	7部(5/1現在)	実施した地域クラブ数	4クラブ(9月下旬～)
全体の指導者数	11人	全体の運営スタッフ数	6人
主な運営団体	関川村教育委員会 教育課		
主な種目	バスケットボール、バレーボール、卓球、(柔道)		
平均的な活動回数	5.6回/月(9月～)	年間平均参加生徒実数	3年：0人/クラブ 2年：4人/クラブ 1年：5.5人/クラブ
参加会費	900円～0円/年	主な活動場所	関川中学校

